

件 名	令和 7 年度 福井市障がい者自立支援協議会 第 2 回地域移行・地域定着部会 報告書		
日 時	令和 7 年 8 月 12 日（火） 14:00～15:00	会 場	福井メディックス 2 階
欠席者	暁委員、山崎委員、池田委員、吉田隆達委員、		
報告事項	1. 福井市障がい者自立支援協議会の体制見直しについて資料 1		
協議事項	2. 令和 7 年度の部会スケジュールについて：障がい福祉課 次第より		
	1. ワーキンググループの進捗等報告について		
	・研修グループ進捗状況について 資料 2-1、資料 2-2		
	・アンケートグループ進捗状況について 資料 3-1、資料 3-2、資料 3-3、資料 3-4		
報告事項	【市・見延氏】 ・白藤委員の所属先が、みどりの森訪問看護ステーションから「あーる訪問看護ステーション」に変更。 1. 福井市障がい者自立支援協議会の体制見直しについて資料 1 について ・現在、自立支援協議会は全体会、運営会議、4 つの専門部会（居宅生活支援部会、こども部会、就労支援部会、地域移行地域定着部会）、個別調整会議と相談支援事業者連絡会で構成されている。当協議会の地域移行地域定着部会の設置の経緯としては、平成 26 年度末の福井市障害者自立支援協議会の活動報告において、地域移行地域定着の難しさが報告され、関係機関のネットワーク構築に向けた協議の場を設けた検討が必要であるとの結論となり、平成 27 年度の第 1 回運営会議において、部会設立に向けたプロジェクトチームが立ち上がり、部会の構成メンバーや取り組む課題について整理して、翌 28 年度から地域移行地域定着部会が開催されているところ。今回の資料については、8 月に行われた第 2 回運営会議で示された資料を参照している。令和 8 年度の体制で、部会に関わる部分として、居宅生活支援部会と、地域移行地域定着部会の機能を統合した、地域生活支援部会というものが、新たに設置される予定で主な協議内容としては、入所者等の地域移行、地域生活支援の充実、重度障害者の支援などをイメージしているところだが、具体的な内容については、今後部会としても検討していく必要があると感じている。少し変化があったところとしては、相談支援部会というものが新たに立ち上がった。また、個別調整会議は、委託や特定相談支援事業所が実施するという内容や、個別調整会議から出た地域課題は、委託や主任相談員を通して連携していくという内容となっている。また、部会から委員推薦を各連絡会などに掛けて、その連絡会から委員の方が出席するような形、または協議で課題を連携するというような形を今後取っていく予定。		
質疑応答	【森下委員】 ・居宅生活支援部会と地域移行定着部会を新たに一つにすることになった経緯を説明願いたい。 【市・見延氏】 ・取組み自体が重なる部分もあったため、今後重なる部分については整理し、新たな		

協議内容 報告	部会を立ち上げていくというような流れになっている。新しい部会での取り組みについては、部会メンバーとの打ち合わせが必要。各連絡会から委員を出すことになり、連絡会メンバーも含めて部会を構成する運営となる。委員の選定はこれから行う。 【山崎部会長】 ・福祉業界の人だけだと発展しない。民生委員やケアサポーターなど地域住民の意見も必要。特定のグループに偏らないよう配慮する必要がある。 1. ワーキンググループの進捗等報告について ○研修グループ資料 2-1、資料 2-2
意見等	【山本委員】 ・7月3日にオンラインにてワーキングを実施し取り組み内容を決定。昨年度からの流れで、地域住民向け（民生委員児童委員）に勉強会実施。その後の依頼はない。連絡待ちとするのか依頼をかけていくか検討していきたい。資料はわかりやすかったかと思う。今回少し変えたのが、民生委員の地域の人口数と障害者手帳所持者の割合提示。民生委員と同程度の地域住民が障害者手帳を所持している割合を示した。 ・ピアサポーター派遣事業については、部会構成メンバーにまずは知ってもらうために自立支援協議会で実際にできないか。また奥村委員からは、個別性が高い入院患者にはピアサポーターは向かないかもしれないという意見があり、他の精神科病院への確認でも同意見を得た。 ・地域生活者の定着促進にはピアサポーターが効果的という意見もあった。基幹相談支援センターが開催する「地域移行・地域定着を考える会」に、部会メンバーが参加して、そこでまず支援者向けの勉強会みたいなことができないか検討中。 【基幹坪田氏】 ・勉強会をそこでするかはわからないが、今回は前年度にした調査をもとに、病院側が思う「課題」を考えるので、そこで一部参加という形で共有できるといい。 【山崎部会長】 ・当事者が作成したピアサポートの内容のDVDを借りられた。140分あるが見たい方はお貸しする。
報告	○アンケートグループ資料 3-1、資料 3-2、資料 3-3、資料 3-4 【森下委員】 ・アンケートグループのワーキンググループを6月17日行った。内容としては地域移行を希望しているかの調査を各施設向けに行うアンケートの内容についてと、民生委員向けの研修後のアンケートの集計。 ・資料 3-2：ワーキンググループで話し合った地域移行希望調査の内容。利用者の年齢、障害、入所年数の調査により、傾向分析を行う。これを元にどこに重点を合わせて、支援というか対策を考えていくのがいいのかの参考にできたらいい

質疑応答	いなど考えている。目的は、施設が抱えている課題とかのピックアップ。前回はおそらく利用者の方毎に聞いて、課題抽出していたかと思うが、そこまでやると大変なので、施設職員が抱えている課題感みたいなのでまずはいいかと思っている。 ・資料 3-3、エクセルシートに打ち込んでもらい、そのデータを基幹に送ってもらうような形態で集計。例えば希望、施設番号、氏名、年齢、希望する地域交流、利用する年齢、40 代、50 代、60 代、入所年数等を、施設側に打ち込んでもらい、集計したデータをもとに、何の傾向が分かるかという風にしたいと思っている。それ以外どんな設問を入れるべきか意見が欲しい。 【山崎部会長】 ・施設か病院向けで、回答してくれる方向けにどんなことを聞きたいかということだと思うが、アンケートの目的は何か。 【森下委員】 ・趣旨は、職員が地域移行を進めるときに何に困るかを知ることによってそこにアプローチできるのではと考えている。
意見等	【山崎部会長】 ・目的は「何に困っているか」で、障害のある方、病気のある方、完治してる方を本当は出したいが、困ってることは何かを分かるような取り組みをする設問でよい。 ・直接支援している人への意見を聞くことで、課題が抽出できるので良いかと思う。 【白藤委員】 ・支援していて困るのが、やはり利用者の方が悪化した時に「患者さんどうしよう」かと思う。受け入れして貰えない時もある。悪化した時の受け入れ先がどこなのか支援者側の不安がある。 【奥村委員】 ・精神科病院へのアンケートでは、退院阻害要因として緊急体制が整っていないことは挙がる。緊急の症状に対しては、うちに入院歴のある方であればということはあるので、そこに入院できるか、入院をさせられる理由があるかないかについては、よくあるのは現実と、本人ができると思っていることと、支援者が心配というところの温度差がある等といったところは非常に心配。 あとは本当に、困り感について、きちんと上げてくれる回答となると、どこに回答するかで、よく躓いてしまうといったところなのかなと。精神科医療はそういったものかという風に思っているが、入所施設では少し困難性が出てくるかと思う。 【川端委員】 ・刑務所に 1 2 回ほど入所経験を持つ高齢者がアパートへ移行したが、生活力は低く一般常識的に考えて、普通に考えられるだろうということが全くできない。ちょっと体の調子が悪くなったら病院に行くということも全くできない。そういったところのケアというのも、長く入院すればするほど必要になる。現実の世界から遠ざか

ってしまっているというところで、そういったケアや考え方というのが、もっと必要になってくると感じる。

【山崎部会長】

- ・施設症候群という言葉があるが、そういったものかもしれない。
- ・令和3年に、アンケートを取った施設等をあんまり覚えてないんだが、11箇所だったようだが。

【市・見延氏】

- ・前回のアンケートは施設5か所（足羽更生園・若越ひかりの村・すだちの家・美山荘、七瀬の郷）。精神病院6か所（三精病院・松原病院・福仁会病院・福井厚生病院 福井病院・福井県立病院）で実施している。

【山崎部会長】

- ・エクセルをデータでまとめる時に基幹に協力はもらえないかという件についてはいかがか。

【基幹坪田氏】

- ・了解した。

【山本委員】

- ・アンケート実施に合わせて、「勉強会できます」とか、「ピアサポーター派遣できます」と案内を添えて貰えると助かる。
- ・話しておきたいことが2点。民生委員向けの勉強会の開催について、今年度の12月で3年満期の開催になり、会員の再構成もあるが、継続的に周知していくか。また、ピアサポーターを地域移行定着を考える会で共催できないか。後者についての案としては、自身が対応するケースとして、精神科病院を退院するのがちょっと難しいだろうと言われている方が、退院して地域生活を上手に送っているといった事例も沢山あるので、そういったところで何か事例を通して勉強会をし「地域が支える」ことを提案したい。

【山崎部会長】

- ・周知に関して、具体的な内容まで把握してないが、居宅生活支援部会は、身体障害がある方が対象ではないのか。

【基幹坪田氏】

- ・居宅部会では、精神障害の方に特化した病態理解のようなことについては触れていない。いろんな障害の方が地域で暮らしていて、暮らし続けられるようにするために、いろんな方に、障害の概容理解と（今年からちょっと内容を変えた）障害があっても、「合理的配慮」をして貰えると障害を持った方も、暮らしやすくなるといった視点での周知。それを民生委員だけじゃなく、福祉委員とか自治会長とかにというような方向性にある。精神のことに関しては、こちらのチラシの方が、よく分かると思う。障害を持っても、安心して暮らせるってどういうことだろうと言うのが居宅支援部会。

- ・地域移行定着を考える会で、周知はしてもらえればよいのでは。

【山崎部会長】

- ・居宅生活支援部会は、すでに地域に住んでいる障害のある方、病気を抱えている方がどうしたら安心して地域で暮らせるか。地域移行定着では、今まで施設や病院とくに 30 年 40 年いた方が、今から地域に移行していく話がメインのため周知はしてもらえればいい。
- ・地域移行定着を考える会に共催というのは、どういう意味なのか。名前を一緒に出すとか、か。

【山本委員】

- ・一緒にできるといいという意味だが、地域移行定着を考える会の方の考えもあるかなと思う。

【基幹坪田氏】

- ・構成メンバーは、病院 PSW と基幹・委託・保健所・地域定着等、精神障害者を支援している方。長期入院の方の課題等を解決していくとかいうような視点のため、厚生病院や医大は含まれていない。そのため会でのアンケート集計に厚生病院や医大は含まれていない。
- ・前回の会議に地域移行地域定着部会より 2 名の方が傍聴情報提供という形で参加。今回も参加メンバーとして考えてはいる。

【山本委員】

- ・ピアサポーターの研修をやっている吉田委員からコメントをもらっている。登録者のメンバーが 90 人程度、9 割が精神の方でメンバーも増えていっているが、ピアサポート活動の場がないのが課題。
- ・ピアサポーターが話せる場をもうけるとした時に、リカバリーとか地域生活というところの実際に付いての話はできるかなと思うけれども、地域移行についてに限るような内容だと調整が難しいかもしれない。
- ・次年度の体制が変わり、今年度企画の内容から外れているのであれば、今回はピアサポーターを部会でやることも検討が必要。

【山崎部会長】

- ・次年度からこの体制が変われば、今からピアサポーターは時間的には余裕がないところは 1 つある、そこをまた検討したい。

【基幹坪田氏】

- ・ピアサポーターの方にどんな話をしてもらおうか等について、まず、今度の地域移行を考える会の中で、進め方等、意見をもらう場に出来たらいいと思うので、同意があれば、次回の会議の場で提案しようかと思っている。部会としては 1 つになっても、運営会議で協議していく中で、ワーキンググループが位置付けられており、定着の部分とか移行の部分等、いくつ設けるかといったことも含めて提案していった次年度に返せばいい。話す場がないという捉え方はしなくていいと思う。

	【山崎部会長】 ・移行定着部会でやってみながら、PSW さんが集まっている所で、意見をもらえればいいかなと思う。11 月の部会の時に、お試しでやれたらいい。
次 回	令和 7 年 11 月 4 日（火）14:00～